

第2回 川口市子ども・子育て会議 議事録

開催日時 : 平成25年11月14(木)
午前10時から
開催場所 : 中央ふれあい館
講座室3・4号

■出席委員(敬称略)

松原委員、尾木委員、山南委員、浅沼委員、庵地委員、綿引委員、中島委員、
小松委員、倉持委員、一色委員、松枝委員、臼倉委員、加藤委員

■欠席委員(敬称略)

榎本委員、中村委員

■事務局出席者

福祉部長、福祉部理事、保育課長、教育総務課長、学務課主幹、学務課主事
保健センター所長、子育て支援課長、子育て支援課職員5名

■傍聴者:なし

■配付資料

資料1:ニーズ調査票案の修正について

資料2-1:川口市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(小学校就学前のお子さん用)

資料2-2:川口市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(小学校就学前のお子さん用)

資料3-1:川口市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(小学生のお子さん用)

資料3-2:川口市子ども・子育て支援に関するニーズ調査(小学生のお子さん用)

資料4:今後の予定

資料:次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

議題1 川口市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査票案の修正について

○事務局（子育て支援課）

(1)川口市子ども・子育て支援事業計画案に関するニーズ調査票(案)の修正について、事務局より説明。

○松原会長

資料1に基づき、前回いただいたご意見に対応・修正の提案が事務局から出ているので、これに基づき追加修正、あるいは前回気づかなかった事で今回ご発言があれば、1ページについて、ご意見をうかがいたい。この後のレイアウトもあると思うが、23ページだったものが20ページになっている。

○小松委員

共通の7番の設問、市の子育て支援の満足度を訪ねてはどうか、と前回私から質問したが、一点お聞きしたい。このニーズ調査が今回実施して、数年後ニーズ調査、アンケート調査をする予定はあるか。

○事務局（子育て支援課）

現在は、このこれから行われる国の子ども・子育て支援計画に基づいてのニーズ調査となる。その後計画期間としては5年間が予定されており、その後は今のところ次回へのニーズ調査の計画までは決まっていない。

○小松委員

こちらの満足度は、個別事業の子育て支援に関する満足度は記載されているが、今回メインのテーマである保育園や幼稚園の待機児童対策、学童保育のニーズ調査をされているが、現状の満足度を知る事によって、幼稚園・保育園・学童の現状の満足度は非常に高いと聞いているので、今後5年後同じようなアンケート調査をする時に、施設は増えたが満足度が維持できているのか確認できるかと思い提案した。これに伴い前回私も説明した、保護者目線での意見調査が多いので、子どもの意見を聞くところを追加してはどうかという意見を述べたが、こちらには書いていなかった。具体的な案としては、例えば小学生であれば、資料3-1の5ページ学童の利用について実際に利用しているお子さんに満足度を聞く、7ページの学童を利用していない4年生から6年生までの小学生に放課後をどう過ごしたいか、同じような形で聞くことによって、子ども達の意見も反映されるのでは、という2点。

○松原会長

問 16 に幼稚園・保育園・学童を付け加えるというご提案か。

○小松委員

5 ページ問 11 学童を利用している方への設問の中に、利用している方の現状の満足度。

○松原会長

他の委員の方のご意見を伺いたい。

○浅沼委員

満足度調査というのは難しい。満足度は保護者さまさま。どういう事に満足して、どういう事に満足していないかというのは、それぞれの細かいニーズに答えるという事なので、それをアンケートの中に盛り込むのは難しいと思う。ただ満足度といっても人さまさまなので、具体的な事について満足度を聞く設問なら答えやすい。

○松原会長

行政施策に反映させていくための調査なので、何を改善すれば満足度が上がるかという示唆が得られないと、総体的な満足度というのは、どこを改善していいか見えてこない難しさはある。

○山南委員

資料 2-1 の 10 ページ問 16 は、満足度調査といえるが、これは中身を全く問わないで満足かどうか聞いている。

○松原会長

そういう意味では、ここをそれぞれのものについて、何を示唆してくれるかといえれば必ずしも示唆してくれる訳ではない。

○浅沼委員

確かにそうだが、あくまでも今やっている施策に対して、その施策の上でこういう機関をあげてやっているの、その機関としての問題に取り組まれば良い。このニーズ調査全体では、大変な作業になると思う。問 16 については、それぞれの機関ごとにやっている事業について満足かどうか調査ができれば良い。全体の調査では、そこまでは細かく聞く必要はない気がする。

○小松委員

確かに満足度というのは、細かく分けると時間が分けられてしまう。質の高い幼稚園を増やしました、5年後質を下げたくないというのが大前提なので、あくまで細かい事より総体的な意見として把握をして、目安の1つになるというご提案。

○松原会長

他にご意見は、2つに分かれている。多数決ではない。

○松枝委員

恐らく問 16 は国が示している調査項目外。前回のご説明では現在の効果を知りたいという事だと思う。満足度となると、幼稚園も保育園も私立も公立もあるので、形態が違う。これらでの満足度は難しい部分がある。小松委員さんのご趣旨はよく分かるが、今回の調査の目的から考えるとイレギュラーなものだと思う。市としては現在やっている事業についての満足度を聞きたいという事だと思う。

○松原会長

一番大きく括ってというのは問 34 が用意されている。これは保育園・幼稚園・学童含めて全体として、川口の子育て支援はどうかというのはある。他にあるか。

○臼倉委員

問 34 で全体的な満足度が分かって、問 35 の自由記載欄があるので、不満足な人は、ここに書いてくれる気がする。川口市の施策の満足度は、問 16 の細かいところで評価できるのではないかと。修正案の考え方で分かるのではないかと思う。

○松原会長

事務局で何かコメントあるか。難しいのではないかとのご意見があるので、一応受け止めるが、会議全体の意見では、幼稚園・保育園・学童の満足度についての設問の追加は、反対の方が多かったという事でまとめさせていただく。

次に親御さんがお答えになる調査で、1つ2つ子どもの意見を聞く事があっても良いというご意見で、アンケートに答えながら親子の会話ができるかもしれない。後半のご提案について、いかがか。

○庵地委員

4年生から上であれば、子どもに対してどんな風に過ごしたいか、親が聞いて書き込む事は1つの良い方法かと思う。親がどう過ごさせたいかという事もこの中にあるので、それと合わせて参考になる部分だと思う。

○松原会長

調査設定上、回答者の位置づけは。

○尾木副会長

子どもについてのプロフィールを学年や性別を持ち込まなければならない。スペース的に1問2問で1ページ位は必要になる。

○松原会長

そうすると量の問題がある。他にご意見は。

○浅沼委員

設問によっては、小学生の4年以上になれば、こういう質問になれば親が子どもに聞くのではないか。そうすれば子どもの気持ちも反映されるのではないか。

○松原会長

先ほどのご提案でいうと、資料3-1の問13は、もう少し違う聞き方をしないと、ファミリーサポートセンターと言われても子どもは分からない。全く別で、これは親が答える用で、ここはお子さんがお答えください、お答えになったお子さんは何年生か等。

○浅沼委員

意外に小学校4・5年生になると分かる。親も家庭でそういう話もしていると思う。結構そういう施設へ子どもたちも行っているので、皆が皆分からないわけではないと思う。ある程度は分かると思う。

○尾木副会長

1年生から4年生のお子さんがいらっしゃる方を対象にしている。

○中島委員

今の解決策というかご提案ですが、この中ではお子さんの意見を反映させるのはなかなか難しい。例えば1つ問題を追加して、お子さんに聞きます。お子さんは喜んで学童に通っていますか、イエス・ノー。ノーの方はなぜか、もっと親と一緒に過ごしたい、もしくは嫌いな先生や友達がいる、という事を答えさせると、子どもの意見を反映させるという意味では。問13に関してはあくまでは親の立場だと思う。親も本当は子どもと一緒にいたい、働きに出なくてはいけないという理由で、4年生に

なっても1人で置いておくのは心配だから行かせたい、という親の都合なので、お子さんに尋ねるのは、1つ問を設けるという提案。それがスペース的にどうかという問題は別だが、そういう方法もあるかと思うがいかがか。

○山南委員

年齢の問題は、先ほどあったが、やはり親宛のアンケートなので、全く親が介在しないで子ども自身が答えを書くとは思えない。親のバイアスを受けると思う。そういう事でやるアンケートは意味があるのか。

○松原会長

予算的な制約もあり、実際に子ども用の調査をするところも無いわけではない。教育委員会にご協力いただいて、小学校に直接配って、A4の紙裏表位のもので、直接子どもに回答してもらおうというやり方がある。郵送等のお金をかけないで、手作業の印刷にして、集計の入力作業はお金がかかるが、そういうものはいかがか。

○事務局（福祉部長）

ご提案としては教育委員会にお手数をかける。この中で子どもさんのご意見という事では、果たして子どもさんのご意見としてどれ位選択肢が出てくるのか考えていた。多くの子どもさんの放課後の過ごし方というと単純に遊びたい。近所に児童センターがあれば、仲の良い友達と遊びに行きたい。このように遊びたいという時期で子どもさんに聞いて自分から習い事を挙げる子どもさんがいるのか疑問に思う。改めて設問をよく考慮しないと、本当に子どもさんの意見を汲み取れないのではないか。考え方としては、子ども・子育てというところで、そういうところまで踏まえて施策に反映させていかななくてはいけないと思うが、今回の調査の中でそこまでやるのは無理があると考えている。

○浅沼委員

私も正直なところそういう感想だと思う。ただ行政側としては、当然そういう事を承知の上で子ども達の気持ちを汲み取ろうという姿勢は必要だと思うが、実際はやったとしてもそういう結果はほとんど出ない。子どもは市の行政の取り組みや施策を考えていない。自分の生活しか頭にない。自分の今の生活はどうかというのは、今言われたような回答になると思う。子ども自身にそういうアンケートを取っても、それを具体的に行政に活かすところまでは行かないだろうと思う。何かの機会にそういう事を取り込んで反映させるのは良いと思う。

○松原会長

子どもの声を聞く事はすごく大切だと思う。同じ調査票には技術的に組み込めないと思うので、委員会の提案として、別途子どものための調査を考えていただいて、小学校経由で、4年5年とか学年限定をして全数調査ではなくても、実施を探っていただく。できればこの会議で子ども用のアンケート調査の項目も一度出していただいて、議論が出来ればと思うがいかがか。

○小松委員

確か前回そういう提案をさせていただいて、予算的な問題で今回はこの調査票にするとなったが、先ほどの問13について、小学4年生にもなると子どもとはいえ自分の考えはまとまってきている年代だと思うので、子どもだから意見を行政に反映させないという事では、子ども・子育て会議と名乗っている意味がないと思う。子どもだけのアンケート調査をするのは、時間的な要因も予算的な事もあるので、問13に関しては、単純に保護者にどう過ごさせるかという保護者への投げかけだが、小学校4年生のお子さんと一緒にご記入くださいとの一文が入っていれば、少なからず子どもの意見が反映されると思う。

○松原会長

わかりました。1～4年生用なので、どんな場所で過ごさせたいと思いますかの後に、「お子さんとご相談しながらお答え下さい」、という一文を入れるという事でよろしいか。

○尾木副会長

資料1の2ページをご覧ください。こちらに5項目出ていて、最初の4項目は修正に反映されている。一番最後の項目は、設問を追加しないというコメントがついている。ここについてご意見やご質問等があればお願いします。ここは表現上の問題が多いかと思うが、よろしいか。

3ページについて、ご意見やご質問はいかがか。

○臼倉委員

1のところ、どれ位時間がかかるか書いてはどうかという事だが、これを見て途中でやめる人がいると思う。その場合の回答は、有効回答として扱われるのか、無効とされるのか。回答率は30%位と言われていたので、途中まで回答した意見はどうなるのか。

○事務局（子育て支援課）

調査票にお答えいただく際に、必ずしも全問が埋まるかという事については、ご協力いただく方によると思う。お答えいただいて、ご返送いただいたものについては、

有効なものという考えのもとに、途中の設問にお答えがなかったとしても、お答えいただいている部分についての把握はしていく。

○中島委員

回収率と各設問ごとの有効回答率という数値として出される予定か。

○事務局

今回アンケート実施させていただき、多くの方から回答いただくと思うが、いただく中に全部の設問に的確にお答えいただく方の方が多分少ない。多くの方は一部無回答の部分があると思う。全くご記入がないが、戻していただく方もいる。こちらの方では戻ってきた票数を全てカウントして、そのうち白票、全く1問もお答えになってない票が何票あったかをご報告する。それ以外の一部でも回答いただいている方については、全て有効な調査票と扱い、ご回答いただいた質問については、全てその方のご意見を反映させていただく。無回答のものについては、それぞれの設問ごとにご回答いただいた方の数を全てカウントするというのが、基本的な考え方。最終的な回収率の扱いについては、今回配布する票数を母数にして、分子の部分については、白票以外の1問でもお答えいただいた調査票については全て有効の回収数として回収率を出す。

○松原会長

ありがとうございます。先に進みます。資料1の4、5ページはいかがか。

○松枝委員

小学校就学前のお子さん用の5、川口市以外で利用していることも想定しているため現状のままとしますとあるが、資料2-1修正箇所を表記した調査票5ページ、現在川口市に認定こども園はあるのか。

○事務局（保育課）

現在、本市に認定こども園はありません。

○松枝委員

恐らく認可保育所も認定もそうだが、管外委託という考えもある。現在川口市で把握しているお子さんで、管外委託で認定こども園へ行っているお子さんはいるのか。

○事務局（保育課）

現在は把握していない。以前はいた。

○綿引委員

ニーズ調査修正の資料1の5ページの27番と7ページの3番について質問。留守家庭児童保育室の利用について、平日は5時から何時何分までの利用時間帯かという質問。土曜日は学校が休みなので、下校時からとなっているが、学童保育の子は8時半から6時半までなので、下校時からではない方が良いのではないか。

○庵地委員

土曜日は、夏休み等と同じ扱いという事か。

○事務局（学務課）

土曜日は、下校時からではなく何時から何時にする。

○松原会長

再修正、元に戻す。

○綿引委員

希望だが、土曜日利用している保護者からなのだが、土曜日利用するのは、土曜日に就労している事が条件で証明書が必要。6時半に間に合わない時がある。ファミリーサポートセンターを利用しても、その時間帯に動ける方がごく少なく、3か月待ちと聞いた。あと30分位延ばしてほしいという意見が出ていた。

○松原会長

時間帯が延びて回答がくるかもしれない。聞き方を変えていきましょう。

○事務局（学務課）

終わりの時間に関するご意見についても、今回の調査項目の中で希望する時間帯は何時まで使いたいという事で調査させていただいているので、今後検討していきたい。

○松原会長

ありがとうございました。他はいかがか。同じような質問項目が、小学校用にも入っているので、ダブルのご指摘でも結構です。

○松枝委員

ニーズ調査票修正について、資料1の5ページの22、問21「親の介助」は「親の介護」に修正をお願いしたい。

○松原会長

資料1の訂正でよろしいか。調査票としては「等」に含まれるという事で良いか。

○松枝委員

意見として述べたので、市としては「等」という話なので良い。親の介護というのは、恐らく子育て中のお父さんお母さんはまだ若いので、そこまで切迫していない感じはする。育児介護法の制度からいうと、事業所は必ず親の介護等については、年間で5日から10日を与えなさいと出ているので、そういう背景を考えた時に重要な事。

○松原会長

第一子出産年齢が30歳位で、30歳の人の親が60歳超える人もいるので、親の介護というの、保育園就学前でもありえる。利用したいという時に、冠婚葬祭、その他の前に、親の通院・介護等と入れるか。レイアウト的には入る。

○松枝委員

私としては、「等」で処理した事については理解している。社会的な背景があるという事。どういうご認識でいるのかお伺いしたい。

○事務局（子育て支援課）

今回の14ページの利用したい、のこの項目欄、スペースがあるので、親の介護という表記を加えさせていただく。

○尾木副会長

その前の親の通院というのは、保護者自身だと思うが、保護者の親の事だと表現に気を付けないと、子どもにとっては祖父母。

○松原会長

子どもにとっての祖父母か、回答者の親。

○事務局（子育て支援課）

文言を検討した上で入れる。

○松原会長

他はいかがか。今日の議論が終わると日程的には調査に入るので、ラストチャンス。前に戻っていただいても良い。一覧に含まれていない事でも。

○中島委員

土曜日の扱いが、他のページにも土曜日の表記があるが、全てを夏休みや冬休みと同じ扱いでないと意味がない。最近では学校公開などを勘案した上で、あえてこうしているという意図はなかったのか。

○事務局（学務課）

ご指摘の通り学校公開日等で、土曜日学校がある場合があるが、年間を通じてみた場合基本的には休業しているので、統一させていただきたい。

○松原会長

もう一度精査して、土曜日の項目は下校時を 24 時間制で聞くようにお願いします。他はいかがか。

○小松委員

就学前のお子さんの問 12、今後利用したいところに丸を付けるのだが、1 から 8 番までは大体分かると思うが、ファミリーサポートセンター等は利用したことがない方は分かりにくいと思うので、もう少し具体的な内容が書いてあると分かりやすいのではないか。

○松原会長

概要をもう少し詳しくという事か。

○小松委員

例えば、居宅訪問型は、他の市では母子家庭の支援や産後のケアの制度もあるので、ファミリーサポートセンターもより具体的に。

○庵地委員

ファミリーサポートセンターのサポーターをやらせていただいている立場からすると、ファミリーサポートセンターというのはその日にすぐ利用できるわけではなく、会員登録が必要、会員登録のための受講が必要という言葉はここに付け加えていただいた方が良いでしょう。

○松原会長

説明しにくい。

○庵地委員

料金も1時間700円から1,100円程度というのは、一般のベビーシッターを頼むより料金的には安いので期待すると思う。お互いのサポートする側のボランティアスピリットで支えられている事があるので、会員登録が必要という事は入れた方が良い。

○浅沼委員

この項目の全体的に言える事で、問12の設問に1行付け加えてはいかがか。ここでは概要で説明しきれないと思うので、それ以上の事はそれぞれ機関へ問い合わせさせていただくしかない。これはあくまでアンケートなので。

○事務局（子育て支援課）

問11に関しては、現在ご利用の方に利用している事業の内容を尋ねている内容なので、逆に言うと知らない内容については、ここで説明する事は必要ない。問12は、利用希望を尋ねるアンケートなので、利用者負担の目安等を記載しているので、具体的な内容を示させていたでている。

○松原会長

もう少し詳しく。

○松枝委員

問11と問12、第1回の時も質問したが、クロスをするという話で、どの位のクロスをするか質問した。問11は利用している事業の中に、小規模な保育施設が入っていない。問12には入っている。これは意識的に抜いたのか、利用していないのか。

○事務局（保育課）

問12にある小規模な保育施設、概要のところに記載されているように、新しい制度の中の仕組み。現状の利用は、現在市にはそういう施設がないので、記載されていない。

○松原会長

他はいかがか。では今後のスケジュールを説明させていただくが、最後にもう一度戻るので、目では調査票を追っていただきたい。

議題2 今後の予定について

○松原会長

(2)今後の予定について、事務局からお願いします。

○事務局（子育て支援課）

資料4 今後の予定について、説明。

○松原会長

11月末に発送で、今日はすでに11月14日。本当にぎりぎりのところなので、手を入れられるのは今日明日。もう少し時間を取るので、調査票で修正点があれば。

○中島委員

資料1の最後のページ、配布地域について考え方としては、地区および年齢を考慮して調査対象者を抽出する必要があるという事で、考慮して抽出する用意があると読んだが、その辺が決まっているならご説明いただきたい。一番初めに両方ともお子さんがいるご家庭に地区を答える欄や、子育ての状況を聞いているので、逆にいえばここから読み取る事も可能だと思う。技術的にこの地区もしくは子育ての親御さんの状況をこのデータから読み取る予定なのか。

○事務局（子育て支援課）

今回の調査対象者については、最初のページにある1～10の行政区を元に調査を行っていくので、地区ごとの人口に沿ったご家庭数の抽出という方法をとって調査をかけていく。

○松原会長

児童人口数か。

○事務局（子育て支援課）

はい。

○松原会長

もう一つのご質問は、そういう事をやっているという事を書かなくて良いのかという事か。

○中島委員

川口駅周辺の集合住宅にお住まいのお子さんの多い地区と、昔ながらの一戸建ての祖父母がいる家庭が多い地区が多少あると思う。そういうところを読み取る意味で、こ

の資料から保育所などの施設が多いとか少ない、どの地区の方が両親以外にも見る人がいる等、このデータから読み取りができるのか。

○事務局（子育て支援課）

問1で地区を聞いて、内容は各々ご家庭のニーズを把握する事になるので、そこをクロスして把握する事は可能。地区ごとのニーズが把握できる。

○中島委員

今のところ予定はしていないのか。

○松原会長

集計工程に地区とのクロスは入っている。他はいかがか。

○倉持委員

他ではないが、私の方からも資料1の1ページの5、施設の設置数や立地に関する利便性を尋ねる設問、その方にとってどれ位の範囲の中で、どういう施設があるのか、それがどういう風に関わっているのか、そういった事を聞いても良いのではないかと質問をしたが、そこに回答があるようにクロスする事によって、そういったところは把握できるとお答えになっているので、個々のところで分かるを受け取った。

○松原会長

難しいのは、生活圏域と地区が全部重なるか細かい事を言うと、地区の境にいて、生活圏域としては隣の地区の施設を使っているという事は十分ある。それは本当に個々の世帯を特定していかないと難しい。それは無記名アンケートにならないので限界はある。

事務局からお話があったが、この子ども・子育て会議は市が企画している調査、それ以降の子ども・子育ての施策に関して、有識者・地域住民の立場からご意見を申し上げるという位置づけになっているので、今日出した我々の意見は尊重していただくという事で、最終的には川口市が責任を持って調査をしていただく事になるので、尊重していただけるようお願いをして、今日の会議を閉じたい。他にご発言はよろしいか。

○松枝委員

今後の予定の中に、計画最終案が第7回27年の3月になっているが、具体的に国で新制度のスタートについては27年4月になっているが、それとの関連の中で予算

や色々な事業の関連はどうか。

○事務局（子育て支援課）

国に対する報告義務としては、26年度末という事で、この計画書を作るという事が国から示されている。その前の段階で26年度の9月頃には計画の骨子的なものを作る事になるので、それに合わせた翌年の予算等にも反映させる事ができると考えている。

○松原会長

事業者負担等もまだはっきりしないが、ここで消費税が通ったので少し動きが出た。今まで国があまり動かなかった。他によろしいか。

それでは、今日の会議は閉じたいと思います。ありがとうございました。

4. 閉会

以 上

平成25年 月 日

委 員

委 員